

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	病態制御科学領域 消化器内科学教育研究分野 氏名 秋田谷 一輝
指導教授氏名	福田 眞作
論文審査担当者	主 査 浅野 クリスナ 副 査 萱場 広之 副 査 井原 一成
(論文題目) 血清亜鉛および銅濃度に対し経口摂取量や <i>Helicobacter pylori</i> 感染が与える影響についての検討	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p><i>Helicobacter pylori</i> は胃癌の危険因子であるほか、血清中の亜鉛・銅濃度に影響を与えることが示唆されているが、一般住民を対象とした <i>H. pylori</i> 感染、亜鉛・銅摂取量、血清亜鉛・銅濃度の大規模な検討を同時に行った例はない。本研究では、2017 年 5 月青森県弘前市の岩木健康増進プロジェクト健診を受診した健常者 1073 名を対象として、血清亜鉛及び銅濃度について、<i>H. pylori</i> 除菌成功者、未感染者、感染持続者で経口摂取量とともに比較検討した。血清を用いた亜鉛・銅濃度の測定、血清中の抗 <i>H. pylori</i>-IgG 抗体価及び便中 <i>H. pylori</i> 抗原検査による感染診断、簡易型自記式食事歴法質問票による 1 日あたりの亜鉛および銅摂取量算出を行った。</p> <p>年齢、性別での亜鉛・銅摂取量は、男女とも高齢者において摂取量が高かったが、どの群も日本人の食事摂取基準の平均必要量以上だった。また、男性で高齢者は非高齢者より血清亜鉛濃度は有意に低値で、血清銅濃度は有意に高値だった。また、血清亜鉛及び銅濃度について <i>H. pylori</i> 除菌成功者と未感染者及び感染持続者を比較した結果、高齢男性の感染持続者が除菌成功者よりも血清亜鉛濃度が有意に低値であることが認められ、長期間の <i>H. pylori</i> 感染が血中亜鉛濃度に影響を与えていると考えられた。その他の年齢性別での除菌成功者と未感染者及び感染者の比較では有意差は認められなかった。上記の結果から、除菌治療によって血清亜鉛濃度が改善する可能性が示唆された。一方、血清銅濃度は、高齢者と非高齢者、性別にかかわらず、除菌成功者と他の群では有意な変化はなかった。本研究の対象者には亜鉛の血清濃度が高値であった者が少なく、銅の吸収への影響が小さかったことや、銅の摂取量が十分であり、恒常性が働くことで血清銅濃度がある程度の範囲内であったことが原因として考えられた。</p> <p>本研究は、<i>H. pylori</i> 感染と血清亜鉛濃度および銅濃度の関連性を大規模な一般住民の検討により示した報告であり、血清亜鉛濃度について <i>H. pylori</i> 除菌による改善効果の可能性を提示した点で独創性が高く、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	消化と吸収 2020. 7 ; 42 : 208-14.